

研究構想シート	学校名	出雲市立荘原小学校
	氏名	今岡伸子
A 研究主題 ふるさとに学び 今を問い続け 共に明日をつくる子どもの育成 ～し（主体的）・たい（対話的）・もん（問題解決的）で追究する社会科の授業づくり		
B 研究の目的 「ふるさとに学び 今を問い続け 共に明日をつくる子ども」を育てるために「し（主体的）」「たい（対話的）」 「もん（問題解決的）」な学習を通して、学びの在り方を、授業実践を通して明らかにする。		
C 子どもの実態 本校の子どもは、課題について調べたり、作業したりする活動に対して真面目に意欲的に取り組むことができる。グループ活動では、自分の意見を表現することができる。そして、地域に愛着をもっていたり、体験的な活動を好む子どもは多い。しかし、資料から考えたり、事象と事象をつないで、おおまかに全体を捉えたりすることに課題があり、そのため、意見をつないでいく姿勢が弱いと考える。こうした実態から、主体的に問いをもち、関わりの中で、対話的・問題解決的に自分の考えを深めていく授業づくりをしていく必要があると考える。	E 手立て・内容（研究仮説） 【仮説1】子どもが身近な事象（地域教材・ゲストティーチャー）を見つめる学習を積み重ねていけば、社会の仕組みに、興味をもち、主体的に考え、表現し、自分との関わりで社会をみつめる子どもが育つのではないか。 【仮説2】問題解決的な学習において、追究したくなる問いを子どもがもつようにし、仲間と対話しながら、解決する場を設定すれば、自分の考えをもち、表現する子どもが育つのではないか。 【仮説3】学習のまとめに向かう手立て（「焦点化する問い」など）を工夫すれば、学習したことを俯瞰してとらえたり、社会の仕組みをより理解したりして、自分と社会をつなげて考える子どもが育つのではないか。	D めざす子どもの姿 ○自分との関わりで社会をみつめる子ども ○自分の考えをもち表現する子ども ○自分と社会をつなげる子ども
	F 検証方法 ①授業研究による検証 ②子どもの発言や活動の様子 ③抽出した子どものワークシートやノートなどの検証 ④子どもの検証アンケート（年2回） ・社会科や国語科の時間に関する意識調査や、研究のねらいに沿った質問項目を設けて、変容を分析し効果を検証する。 ⑤職員アンケート（年度末） ・研究の内容とともに、子どもの様子等についてふりかえり、アンケートとの相関を見て検証をする。	
	G 研究計画 4月 研究構想 5月 教材研究 6月 研究授業① 7月 研究授業② 8月 全国大会指導案提出 10月31日 11月1日 全国小学校社会科教育研究協議会研究大会 11月12月 研究大会のまとめ 1月 研究のまとめ 来年度に向けて	